

91 軟組織肉腫の ^{201}Tl シンチグラフィー。

川島博之、小林洋二、小田切邦雄、野沢武夫、柚田勝輝、朝倉浩一、小野慈、松井謙吾（横浜市大、放）

目的： ^{201}Tl は心筋シンチに広く用いられているが、腫瘍診断の目的としては、甲状腺に用いられる以外はその有用性は ^{67}Ga よりおとるといわれている。今回、 ^{201}Tl の軟組織肉腫における集積度を検討し、一部 ^{67}Ga との比較を行なった。

方法：Soft Part Tissue Sarcoma 10例（平滑筋肉腫1例、横紋筋肉腫1例、線維肉腫1例、脂肪肉腫1例、Hemangio-fibro-sarcoma 1例、alveolar soft part sarcoma 2例、悪性黒色腫3例）を対象とした。 ^{201}Tl 1.5～2 mCi 静注後30分ないし60分後にガンマカメラ（Searle社 LFOV Standard System）を用い撮影した。

結果：全症例に陽性像が観察された。腫瘍のSizeの大きいものでは、明瞭な陽性像が得られ、Uptakeの程度は、腫瘍の病理組織診と関係なく様々であった。肝、腎腸管に重なる腹壁、腰背部等では判定がむずかしかった。又転移病巣へのUptakeを認め、拡がりの診断に役立った症例を経験した。一方 ^{67}Ga シンチより明瞭な陽性像を示した症例を経験した。

考案：全症例に ^{201}Tl の陽性像が観察された。良性の腫瘍にもUptakeを認め質診断には疑問を残すが、拡がりの診断には役立つ可能性が示唆された。

92 骨病変への $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MDPおよび ^{201}Tl の集積性について。

徳元善昭、洪誠秀、内田勲、津屋旭、梅垣洋一郎（癌研・放） 穴戸文男、館野之男（放医研・臨床） 川口智義、和田成仁、松本誠一（癌研・整外）

骨病変の疑いのある患者について、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MDPと ^{201}Tl の2つの薬剤でシンチグラフィーを行い、両者を比較検討したので報告する。

X線写真、生検、手術所見等で診断の明確であつたものについてのみ検討を加えた。検討した対象は骨肉腫6例、骨巨細胞腫5例、変形性脊椎症4例、骨転移の明らかな乳癌、子宮癌および肺癌が各々8例、5例、5例である。

骨肉腫、骨巨細胞腫では全例で $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MDPと ^{201}Tl の両者の集積が認められた。その集積は $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MDPでは病巣の境界付近で高く、内部は ^{201}Tl が高いというものであつた。変形性脊椎症では全例に ^{201}Tl の集積は認められなかつた。転移性骨腫瘍への ^{201}Tl の集積は乳癌では8例中4例（50%）、子宮癌では5例中1例（20%）、肺癌では5例中4例（80%）に認められた。

骨肉腫、骨巨細胞腫では ^{201}Tl によるシンチグラフィーが大きさ、範囲、等を知るのに有用であつた。一方転移性骨腫瘍では進行癌の症例であつたにもかかわらず検出できない症例があり、検出能には限界があつた。